



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 平成30年 3月 定例会（第2回） 03月23日－04号

P.121 8番（大原裕貴君）

◆8番（大原裕貴君）＝登壇＝日本維新の会芦屋市議会議員団を代表し、第24号議案、平成30年度芦屋市一般会計予算並びに特別会計、企業会計、財産区会計の各会計予算案について、賛成の立場で討論をいたします。

予算全体としては、歳入が減少している中で事業費の大きな事業を抱えている状況を踏まえた事業の取捨選択を行い、健全な財政運営をされている点について、評価をいたします。

公共インフラについては、阪神電気鉄道の立体交差化を検討の俎上にのせる第一歩を踏み出したことについて、評価をいたします。市内の交通渋滞や踏切の事故防止等を考えると、立体交差化は必要だと考えます。

しかし、総事業費の高騰化が必至であることを考えますと、事業化も簡単ではないと予想されます。事業負担のことも含め、さまざまな角度から検討していただくことを要望いたします。

また、ＪＲ芦屋駅南の再開発については、駅周辺の交通状況等を鑑みると、必要な事業であることは間違いないと考えます。しかし、非常に大きな費用を投じる必要がある事業です。地域住民のみならず市民全体に影響する事業となります。公共施設の選定も含め、さまざまな角度からの検討を行い、市民にとって有意義な再開発事業となるよう、実施設計を進めていただくことを要望いたします。

子育て施策においては、本市では保育所に関する待機のみならず、留守家庭児童会における待機もあることが明らかになっています。

保育所については、市内全体の方向性、総合的な計画が示されており、解決に向かって肅々と進められている段階です。臨時的な措置として、認可外保育施設を利用している保護者に対する補助事業を新設している点も評価に値するところです。

しかし、留守家庭児童会においては、待機がある状況であるにもかかわらず、方向性などの情報が示されておらず、保護者が不安を覚えている状況です。平成31年度に向けた方向性の提示など、保護者の不安を少しでも解消するようきめ細やかな対応を要望いたします。

単年度の予算編成に目を向けると、財政面の大きな問題はないように思います。しかし、新年度においても基金の取り崩しが大きくなっており、基金残高は年々減少しています。直近の事業として、精道中学校の建てかえやＪＲ芦屋駅南の再開発など、事業費が大きな事業を控えている状況であり、依然として財政的な余裕がない状態が続きます。

また、高齢化が進んでいくことも将来的な不安材料となります。将来的な担税能力のある現役世代が減り、高齢者層がふえていくことで、市税収入の減少、そして民生費の増加が見込まれます。

民生費については、削減をするのではなく、福祉費用が必要となる層を少しでも減らしていくような施策を講じ、民生費の拡大を抑制していくこと、そして歳入をふやしていく施策を講じていくことが重要であると考えます。

ハード面の整備のみならずソフト面の整備も進めていくことで、財政不安を解消する工夫に関して検討していただくことを要望し、一般会計予算をはじめとした各会計予算案に対する賛成討論といたします。